スポットニュース

「市町村林政業務サポートセンター」を設置―県林業会議―
市町村の林政業務全般を支援

公益社団法人青森県林業会議は、この春から青森市松原にある森林組合会館内の同会議事務室内に「市町村林政業務サポートセンター」を設置した。県からの要請を受けた取り組みで、森林経営管理制度のほか林政全般にわたる業務について、県林政課と連携して市町村をサポートする。

林業会議事務室に配置した「市町村林政業務サポート員」が市町村を訪問し助言を行うほか、電話、メールでの相談やWEBページ専用フォームでの問い合せに対応する。また、市町村の要望に応じて現地調査の指導者や各種研修等の講師など、専門家の派遣による支援も行う。

東青農林水産事務所主催の樹種判定研修会（６月）に研修講師２名を派遣

サポートセンターのWEBページ連絡先はこちら

「モバイル製材機実演会 in 青森」開催

七月十六日、「合同会社Ｙｅｗ Ｖｉｌｌａｇｅ（皆上伸代表）」は六戸町折茂の自社敷地内で「モバイル製材機実演会ｉｎ青森」を開催した。同社はニュージーランド生まれのポータブル製材機「ターボソーミル」を扱う日本販売代理店「ターボソーミルジャパン」の運営を担っており、ニュージーランドからターボソーミル社のジェイク・ピーターソン社長を迎え、県内外から林業関係者ら約４０名が参加した。

「モバイル製材機実演会in青森」の開催会場

開催に当たりピーターソン社長は「世界中を販路としておりますが、大きなマーケットはアメリカです。アメリカでは大きな木が多いのでもっと大きな機械を扱っています。日本の場合は、大きな木を扱うことは多くないと伺っており、７０～８０年生の木までは今回の機械がマッチしていると思います。この機械の特徴は、とてもコンパクトで持ち運びが容易です。また、シンプルな構造であることから、とても少ない手数で挽くことができます。材の挽き方は、ひとつのレールを使って木を動かさずに（レールを往復することで）水平に挽いてから縦に挽くという使い易い仕組みになっています」と自社の製材機を紹介した。

右から皆上代表、ジェイク・ピーターソン社長、通訳スタッフ

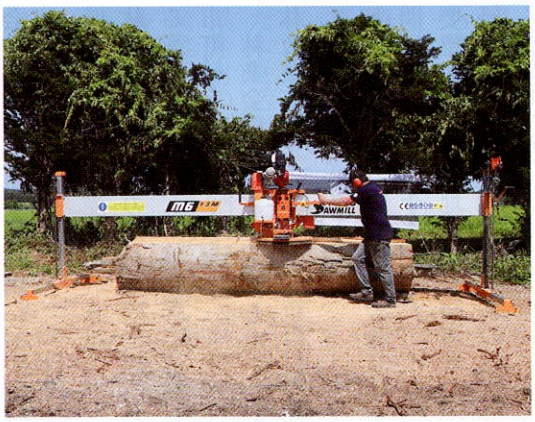
ターボソーミル製材機は重量が約３００ｋｇ（軽量モデルの場合）で、組立・分解が可能であり、軽トラックに積載し山林や山土場等に持ち運べる。製材機の下に丸太を置いて製材するので製材作業中に丸太を動かす必要がなく、刃を水平と垂直に９０度回転するスイングブレードがレール上を往復して角材にする。また、刃のメンテナンスは、刃を取付けた状態の５枚刃のブレードを付属のシャープナーで研磨できるのが特徴。

ターボソーミル製材機本体

刃が水平状態のスイングブレード

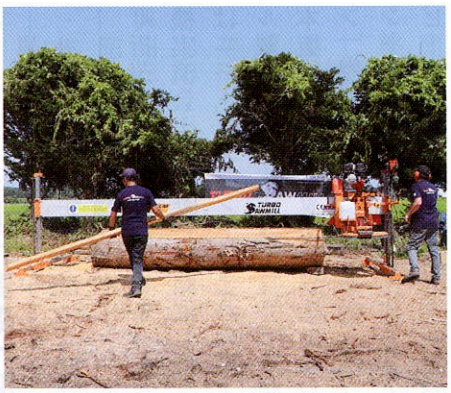
実演では、ピーターソン社長らが講師になり、製材機の下に置いた末口78cm、長さ4mのケヤキ丸太を2×4インチと2×6インチの角材に製材。スイングブレードがレール上を約45秒で1往復し製材する工程を披露した。操作を体験した参加者は「思ったより力を入れなくても切れるし、早いと思った」と感想を述べていた。

製品を切り出したケヤキの断面


製材機の実演を行うピーターソン社長

同社の皆上氏は「六戸町に4つあった製材所がなくなり、私のような中小の林業家が材を挽いてもらいたくてもできなくなった。自分は加工することが好きなこともあって、この製材機で生産した床板などを買っていただいている。自分が生産した製品を販売していくにはまだ課題も多いが、今後も一本の木の価値を最大限に高めるよう工夫していきたい」と抱負を語った。

これまでの同製材機の納入実績については、自伐林家や林業事業体のほか、地元で製材所がなくなった県外地方自治体に販売したとのことである。


製材機で挽いた2×4材を運ぶ作業（右写真）と
生産した製材品（左写真）

地域の緑化事業を担う

造園コンサルタント・公共緑化事業
森林公園造成・個人庭園・河畔林造成
海岸緑地公園・山腹緑化工事・樹木治療

青森県森林綜合開発株式会社

取締役社長　黒　瀧　晴　彦

◎本　社　青森市松原一丁目16番25号　青森県森林組合会館内
TEL 017（723）2930　FAX 017（723）2930